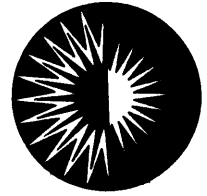




1981年 10月 No. 11

# 技術開発ニュース



## 目次

限りある資源を大切に

- 配電線過電流表示器の開発…………… 2
- 静止形中間調相設備による系統安定度  
    向上対策の研究…………… 3
- テレコン盤内に侵入するサージ電圧  
    の測定結果…………… 4
- 地中送電設備の鋼材類の鉄損について…………… 5
- 300kVガス絶縁開閉装置のサージ  
    特性について…………… 6
- 機器冷却水系の新腐食抑制剤実機適用  
    試験結果について…………… 7
- ボイラ過熱器管の残寿命推定方法に  
    関する研究…………… 8
- 原子力用コンクリートの強度発現性状解析… 9
- 音響法による原子炉格納容器内の  
    診断について……………10
- 広帯域空間線量率計の開発……………11
- 魚数計の開発……………12
- 石炭ガス化複合発電……………13

## 技術開発

## 開 発 と 環 境

(財) エネルギー総合工学研究所 理事長

原子力安全委員  
東京大学名誉教授

山 本

寛



ここ5～6年、毎夏1週間位を、中部電力の管内にある志賀高原で過ごすことにしている。夏の志賀高原は私が今までに夏を過ごしたいくつかの避暑地の中では一番性にあっていいる。国立公園の中にあるために、軽井沢のような若者の夏のレジャー施設がないので、幹線自動車道を少し離れれば全く静寂で、ここにはまだまだ多くの自然が残されている。いろいろな種類の樹木や笹の生い茂る山あいの小道を、木の間を通してさし込む日の光を浴びて歩いたり、さわやかな高原、また色彩豊かに可れんな花をつけている高山植物が自生する湿原の中や、静まった小沼のほとりを鳥のさえずりを聞きながら静かに散歩できるのは本当に楽しい。木々のかおりのする空気や、すがすがしい高原の空気を存分に吸い込むと、夏までにたまった疲れがたちまち雲散してゆく気がするし、また足腰を使うことであと半年分のエネルギーが蓄えられるような気がする。

このように自然に恵まれた土地ではあるが、それでも来る年毎に気になることがある。それは少しずつではあるが折角の自然林が年毎に切り倒されてスキー場になってゆくことである。ここは国立公園なので、開発は比較的押えられてはいるようであるが、それでも自然環境が変化しているのは否めない。もっとも地元の方々にとっては開発が思うにまかせないのがまだまだ不満であるらしい。

しかし私には環境庁は一方では国立公園内での地熱発電などの電源開発には大変厳しいことを言うておられるのに、他方では単なるレジャー——と言ってしまつては、これは国民体位向上のためのスポーツ振興の崇高な目的のためである。例えそれが営利を目的とするものであつてもと言われるかも知れないが——のために水源かん養林として大切な山林の広大な面積の伐採を許しておられるのは何となく割り切れない感じがするし、環境庁の強調される景観の保全についても同様であるように思われて仕方がない。やり方によっては地熱発電の方がまだまだ景観の破壊が少なくてすみ、また社会に益するのではなからうか。

しかし私には環境庁は一方では国立公園内での地熱発電などの電源開発には大変厳しいことを言うておられるのに、他方では単なるレジャー——と言ってしまつては、これは国民体位向上のためのスポーツ振興の崇高な目的のためである。例えそれが営利を目的とするものであつてもと言われるかも知れないが——のために水源かん養林として大切な山林の広大な面積の伐採を許しておられるのは何となく割り切れない感じがするし、環境庁の強調される景観の保全についても同様であるように思われて仕方がない。やり方によっては地熱発電の方がまだまだ景観の破壊が少なくてすみ、また社会に益するのではなからうか。